

◆32番（森田卓司議員） 皆さんこんにちは。

本日最後の質問者となりました。そして、合併地区の議員が4人続きましたが、政令市になるために合併した4地区の議員の最後の質問者となりました。いい気持ちの時間帯ですが、最後まで御清聴よろしくお願いを申し上げます。

また、今福島議員がいられておりましたが、12月1日に建部でありました岡山弁大会では司会をしていただきまして、ありがとうございました。建部の住人といたしまして、一市民といたしまして心よりお礼を申し上げます。ありがとうございます。

また、2カ月前、政令市岡山のトップリーダーは大森雅夫と言っていた私でございますが、そのとおりになってこの議場でこれからいろんな議論が闘わされるということに対しまして、大森市長、市民の皆様方も本当に市長の手腕に期待しておられると思います。よろしくお願いたします。

それでは、通告に従いまして質問に入らせていただきます。

まず、1、市長の政治姿勢について。

(1) 市民サービスについて。

岡山市の政策として中心市街地の活性化は重要な課題であり、活力のある岡山市をつくるために、イオンモール岡山の開業を来年秋に控え、喫緊の課題となっている中心市街地の活性化に向けて新たな挑戦に取り組むとの市長の所信表明があり、このことは十分理解いたしますし、当然のことだと思っております。しかしながら、岡山市の発展のためには、周辺地域に住む方々が安心して住み続ける、住んでよかったと思える地域をつくることも重要な課題であります。もちろん全てを行政に頼るのではなく、それぞれの地域の方々が進んで活力のある地域をつくるために頑張ることも大切なことです。岡山市都市ビジョンにも中心市街地と田園の一体的な発展を目指すことと示されております。今まで何度もお聞きしておりますが、大森新市長誕生後初の本会議でございます。合併を議決して政令市になった合併地域の議員として、ここで改めてお尋ねいたします。

岡山市の周辺地域の発展には、住民サービスの拠点である支所は重要な行政施設です。災害時はもちろんのこと、市民サービスの低下を招くことのないことを切に望みますが、御所見をお示してください。

(2) 岡山市の魅力について。

大森市長には、元国土交通省の国土政策局長というキャリアの中で培った人脈、経験、知識を生かし、岡山市のポテンシャルを最大限に開花させ、魅力あふれる岡山市の都市づくりを先頭に立って進めていただけるものと確信しております。岡山市の魅力ある発展のためには、課題が山積しております。

そこで、本市の現状に対して数点お伺いたします。

ア、伊原木岡山県知事と平井鳥取県知事が記者会見で、首都圏での情報発信の拠点となるアンテナショップを両県が共同で2014年後半に開設すると発表されています。

そこでお尋ねいたします。

県主導になるとは思いますが、岡山市はどのような関与ができるのでしょうか。県と調整はされていますでしょうか、お示しください。

イ、岡山市を訪れた方々に美しい岡山を体験していただくことも重要なことだと思います。今回は道路に限りますが、私がよく通行する国管理の道路では歩道上に草が生えて歩行者の方が歩道を歩けない場所も多々あります。前回の個人質問で、河川に緑は要らないのではないかというような質問をさせていただきましたが、歩道とかにもやっぱり草は要らないのじゃないかと思います。また、中央分離帯も、決して管理が行き届いているとは言えません。岡山市を車で訪れた方々が、さすが政令市岡山の道路と思えるように管理することを道路管理者に岡山市として要望するべきだと思いますが、いかがでしょうか。もちろん岡山市管理の道路も一緒でございます。

ウ、旭川の中流域では、以前はアユ等の釣り人が関西方面からも多く来られていました。スポーツ新聞の釣り情報に取り上げられるなど、釣りのメッカとして非常ににぎわっておりました。ところが、最近ではさまざまな影響で不漁が続いています。いろいろな要因が考えられますが、カワウもその一因だと考えられます。再び旭川が釣りのメッカとしてよみがえるような対策、カワウ対策についてその措置をとるべきだと提案いたしますが、いかがでしょうか。

2、変わる農政大転換、岡山市の対応について伺います。

新聞等で毎日のように米の生産調整等、農業の将来について報道がされています。農家の方々は、その報道に対して今後どのように対処していくべきか悩んでいるのが現状であると思います。特に中山間地域の多くの零細農家は、高齢化もあり存続の危機と考え悩まれています。

そこでお尋ねいたします。

(1) 中山間地域の農業について、現状と今後の対策について御所見をお示しください。

(2) 平成21年3月に岡山市農業振興ビジョンが作成され、主な施策の数値目標が示されていますが、現段階での御所見をお示しください。

この項の冒頭でも申し上げましたが、11月末、日本の農業政策の大転換となる減反制度の廃止が決定しました。米の生産調整がなくなれば、生産規模の拡大や輸出増大に弾みがつくと期待する農家がいる一方で、助成金を支えに経営を維持してきた零細農家は存続の危機に立たされる等々をテレビでも取り上げております。農政の変更で一番困るのは、農家であると思います。私は、本会議で申し上げておりますが、もうかる農業の実現と魅力ある施策が必要であると思っております。

さて、国では平成26年度農林水産関係予算概算要求の主要事業が示されています。

そこで、私からの提案ですが、日本漢方生薬製剤協会加盟会社が日本国内で生産拡大を図りたいと考えている品目で、中国・四国地域ではセンブリ等が示されています。そのほか、指定場所なしで日本国内で生産拡大を図りたいと考えている多くの薬用作物がございます。

そこでお尋ねいたします。

(3) 国の平成 26 年度農林水産関係予算概算要求の主要事業で、薬用作物等地域特産作物産地確立支援事業が新規事業として要求がされています。

去る 9 月 5 日にこの事業に向けた中四国ブロック会議が岡山市内で開催されたとお聞きしていますが、岡山市からは参加されていますでしょうか。参加されていれば、どのような御所見をお持ちになっているのかお示してください。参加されていないのであれば、その理由をお示してください。また、担当局、ここは経済局だと私は思っているのですが、経済局以外から参加されていたら、御所見をお示してください。

(4) 岡山市内で薬用作物を栽培されている農家戸数は、把握されていますでしょうか。また、県内の状況は把握されていますでしょうか。

(5) 耕作放棄地や遊休地の活用、また中山間地域の活性化に資する事業として岡山市がこの事業に積極的に取り組んでいく考えはないでしょうか。

薬用作物は、一般的な取引市場が存在しないことから、漢方薬メーカー等との契約栽培により生産されるのが大半であり、また現在は多くを中国産で占められております。国産薬用作物のメーカー買い取り価格は、中国産に比べて 2 倍から 3 倍とのこと。この事業は、厚生労働省もかかわっており、地域資源を生かした産学官連携による新産業の創出や農業の 6 次産業化を図る絶好の機会になるのではないかと思います。御所見をお示してください。

次に、3、橋梁についてお伺いいたします。

平成 24 年 6 月の建設委員会に橋梁の点検結果が報告されています。高度成長期に集中的に建設された橋梁の老朽化が進み、更新や補修費用等の負担増が予想されることから、これらの低減を図るため適切な点検と評価に基づく補修を計画的に実施し、橋梁を長もちさせて使う橋梁の長寿命化に取り組むための点検でありました。そのように長寿命化の点検及び補修は計画的に行われていますが、今回の私の質問は安全についてであります。

県道建部停車場線の中吉橋についてであります。中吉橋と言ってもわからないかもしれませんが、国道 53 号線を津山のほうに行っておりますと、固有名詞を出していいんかどうかわかりませんが、まあゴルフ場だからいいでしょう、たけべの森ゴルフ場のほうに左に回ります。そこのところにある橋でございます。余談になりますが、この名前の由来は、53 号線側が吉田というところで、53 号線を渡ったところが中田という町内会で中吉橋でございます。もう一つ余分なことを言えば、もうちょっと津山のほうへ行きよったら大宮橋というところがあるんですが、その大宮橋、私の住んでいる大田というところと、それから反対側の宮地というところをつないでおりまして大宮橋というような名前になっております。名前をつけられた方はなかなか考えられているなと思っているところでございます。

この橋は、昭和 49 年に供用開始され、全幅員 8.75 メートル、有効幅員 7.75 メートルで、2 車線、歩道付きの橋です。この橋の高欄——欄干ですね、歩道側の欄干でございます——の高さが低いのではないかと市民の方から御相談をお受けいたしまして、担当課に対応

を依頼しました。

そこでお尋ねいたします。

この橋は、通学道、生活道等で多くの方が利用している橋であり、市民が指摘されているとおりなら早急な対応が必要であると考えますが、御所見をお示しください。

最後に、岡山市水洗便所改造等補助金制度についてお伺いいたします。

平成 24 年度決算資料によると、人口普及率、水洗化率とも向上しているが、依然として他の政令指定都市の普及率と比較すると低率であることが示されています。引き続き普及率の向上や水洗化率の向上に努めなければならないと私は考えております。そのような中で、平成 24 年度より開始された岡山市水洗便所改造等補助金制度は、公共下水道の処理区域内において未接続の解消と供用開始後の早期接続を促進し、市内経済への活性化にも寄与するための事業であると認識しております。

そこでお尋ねいたします。

(1) この制度に対しての現在の御所見をお示しください。

(2) 今後とも本制度を永続的に継続していくべきだと思うが、御所見をお示しください。

以上で 1 回目の質問を終わります。

御清聴ありがとうございました。(拍手)

◎大森雅夫市長 では、森田議員の御質問にお答え申し上げます。

まず、市長の政治姿勢について、市民サービスについてでございます。

私は、6 月にふるさとの岡山に戻ってまいりました。それから、何度も岡山の市内を回ってまいりました。合併地域もそうであります。建部、御津も何度も回らせていただいたというのは、森田議員御承知のとおりでございます。その際、やはりいろんな方からお話を伺いました。高齢化の問題もありました。そして、交通手段の問題もありました。それから、先ほど御質問の中に上げられた農業の問題、後継者の問題もあり、そして農作物の価格の問題もありました。そういう一つ一つの声は、私の心の中にひしと残っているところでもあります。

そういう中で、現在の支所についてであります。これは、合併の経緯を踏まえた組織体制ということで設置されているものと私自身承知しております。今後こういう組織、機能がどうなるかということですが、まずやっぱり適切なものとなっていかなければならないということは言わずもがなであります。また、その議論をする際に、地域から寄せられた御要望、また御意見、さらには今森田議員が述べられたような地域の実態、これらを十分踏まえて考えるよう、とりあえず今担当局のほうに指示をしているところであります。

以上です。

◎高次秀明経済局長 岡山県と鳥取県の共同のアンテナショップについてのお尋ねにお答えいたします。

首都圏におけるアンテナショップの開設につきましては、本年5月に岡山県と県下市町村及び関係団体で構成します岡山県アンテナショップ協議会を設立し、岡山県の主導により、アンテナショップ開設に係る調査や設置についての検討が進められてまいりましたが、このたび岡山県と鳥取県がアンテナショップを共同展開することで基本合意に至ったところでございます。今後、両県の運営協議会が組織され、施設の全体調整等を行う予定でございますが、具体的な計画づくりはこれからと伺っております。アンテナショップは、首都圏における有効な情報発信の拠点であり、岡山市としても十分に活用してまいりたいと考えております。

次に、旭川のカワウ対策についてのお尋ねにお答えいたします。

岡山市としましては、水産業への被害を防止するための駆除許可に係る事務の円滑化に努めるとともに、カワウに限定したものではありませんが、猟友会による有害鳥獣駆除の活動に対する助成を行っております。

有害鳥獣対策につきましては、さまざまな手法を組み合わせ対応しておりますが、旭川のカワウ対策につきましては抜本的な有効手段が難しいものの、漁業協同組合や猟友会等関係者の意見や他市町の取り組みの情報把握にも努めつつ検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎山崎康司都市整備局長 同項の中で、岡山市の魅力についてのうち、国管理の道路の除草を市として要望すべきではないか、また市管理道路にも同様の管理を求めるとのお尋ねに一括してお答えいたします。

道路の除草は、通行空間の確保及び視認性を確保するための重要な維持管理業務の一つでございます。市管理道路の除草につきましては、幹線道路等の交通安全対策として年2回を基本として実施し、その他の道路につきましては地域によっては地元の方々の自主的な御協力をいただいているところでございます。国管理の道路につきましては、気づいた点や市民等からの通報があれば国へ要望を行うなど、市として今後も安全かつ適切な道路の維持管理に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎森真弘保健福祉局長・政策局操車場跡地調整担当局長 2、変わる農政大転換、岡山市の対応についての項、中四国ブロックの会議に参加した所見についてのお尋ねでございますが、当該会議へは薬事法の所管局として保健所から職員が参加いたしました。

日本国内において漢方薬の需要は増大している一方、その原料の大半は中国からの輸入に依存しているのが現状でございます。昨今では、中国国内での需要量の増大などにより、輸入価格も上昇する中、薬事衛生の確保という観点からも、国内の安定供給への貢献が期待される本施策を注視してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎高次秀明経済局長 中山間地域の農業の現状と対策についてのお尋ねにお答えいたします。

県の中山間地域の振興に関する基本条例に基づく中山間地域に該当する旧御津町と旧建部町の範囲につきましては、2010年の農林業センサスでの経営耕地面積 898 ヘクタール、農家戸数 1,671 戸で、面積は市全体の 8%、戸数は 13%を占めております。なお、2005年調査の同地域の値と比較しますと、耕地面積は 14%、農家戸数は 9%減少しております。また、農業従事者に占める 65 歳以上の方の割合は、中山間地域が 45%で、市全体の 43%を若干上回っております。

岡山市農業の振興を図る上で、中山間地域におきます農業生産も重要と考えております。これまで、国の中山間地域等直接支払交付金を活用して平地との生産条件格差を補正するための交付金を交付するとともに、新規就農しようとする方への支援等の施策を講じており、今後とも中山間地域の農業振興のため、各種施策の適切な運営に努めてまいりたいと考えております。

次に、農業振興ビジョンの数値目標についてのお尋ねにお答えします。

農業振興ビジョンに掲げます主な施策の数値目標のうち、桃の出荷量は平成 22 年度 436 トン、平成 23 年度 446 トン、平成 24 年度 602 トンと増加し、目標達成をしております。岡山産野菜・果物の安全・安心イメージも、平成 23 年度に 57%と、平成 21 年度と比べて 4 ポイント増加しているものの、平成 25 年度の目標水準には至っておりません。また、農業サポーター登録者数は、平成 21 年度 24 人から平成 24 年度 70 人と年々ふえている一方、認定農業者数や新規就農者数が伸び悩んでいる状況にあります。このため、本年度より果樹等園芸作物を生産する農業者団体を対象としました施設・機械整備費用の助成について独自のかさ上げ措置を設けるとともに、昨年度に引き続き経営が不安定な就農直後の所得を確保するための給付金等の事業を行っているところでございます。

今後とも、恵まれた気候風土と豊かな水、広大な田園により、多彩の農産物を生産できる本市の強みを生かした力強い農業の実現に向けて各施策の推進により、目標の達成に努めてまいりたいと考えております。

最後に、薬用作物についての御質問に一括して御答弁申し上げます。

岡山市では、市内で薬用作物を栽培する農家の戸数を調査しておりませんが、水田を活用してハト麦やケールを栽培している農業者があることは把握しております。なお、公益財団法人日本特産農産物協会の資料によりますと、県内では 60 戸余りでハト麦やケール、ドクダミ等の薬用作物が栽培されております。

需要者のニーズなど薬用作物に関する情報が乏しいこと、また市内の薬用作物の栽培状況を十分に把握できていなかったこと等から当該ブロック会議には経済局としては参加しておりませんが、本施策の資料において薬用作物が将来的に需要拡大の見込まれる作物と

されていることも踏まえ、今後は施策等の情報収集に努めるとともに、岡山市農業における活用可能性について需要者の団体や国の独立行政法人、岡山市の保健所等との連携を含め研究してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎山崎康司都市整備局長 3の橋梁について、中吉橋についてのお尋ねにお答えいたします。

議員御指摘の中吉橋につきましては、路面から高欄までの高さは90センチメートルあり、この高さは昭和49年建設当時の防護柵の設置基準に基づき設置してありますが、その後平成10年に新たに転落防止を目的とする場合の基準が設けられ、路面からの高さを110センチメートルとする設置基準が改正されております。

本橋梁は、一級河川旭川にかかり橋長が比較的長く、また川までの高低差も大きいことから、歩行者の安全確保を図るための改善が必要であり、早急に対応を行ってまいりたいと考えております。

以上でございます

◎南山瑞彦下水道局長 岡山市水洗便所改造等補助金制度について一括してお答えいたします。

補助金制度導入後の状況でございますが、平成24年度の接続率は85.3%と前年度から1.2ポイント上昇しており、それまでの5年間の平均上昇率が年0.2ポイントであったことと比べますと、大きく伸びている状態であると言えます。そして、補助金利用者からの評価でございますが、利用者へのアンケート結果から、補助金制度によって接続時期を早めたかとの問いに対して約4分の1の方が接続時期を早めたとの回答をいただいております。これらのことから、本制度は接続促進に一定の効果があるものと考えております。

また、今後の本制度の継続につきましては、接続促進に一定の効果が認められることを踏まえながら、今後の接続率向上のためのさまざまな効果的な施策を展開していく中で検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

[32番森田卓司議員登壇]

◆32番（森田卓司議員） 御答弁ありがとうございました。

それでは、再質問させていただきます。

まず、ちょっと順不同になって大変申しわけないんですけど、薬用作物の件でございます。

私もインターネットとかいろんなもんで調べたんですが、来年度ですか、国で20カ所程

度で試験的にやってみようかというような方向が示されております。経済局長の答弁は研究していくということであったので、ぜひ研究していただきたいと思うんですが、もう一回御所見を。

そして、保健福祉局長の答弁は、注視していくでしたね。これは担当がつくるほうじゃないので、注視という言葉で仕方がないのかなと思うんですけれど、やっぱり政令市になって国と直接話ができるようになった以上、研究していくということですから、研究してくださいるんでえんですけど、注視するばあじゃいけんのじゃと思うんですよ。やっぱり本当にこっちがやる気があるんなら、積極的にどうやったら岡山市の農業にこの薬用作物が合うのかどうかということもしっかりとやっていただきたいと思います。それが重要なことではないかと思っております。

それから、あと3分しかないので、合併の部分について。

これ質問にならんかも、まあ1個質問しとるからええか。

先般、10年間の新市建設計画と新市基本計画のことが山陽新聞に掲載されておりました、執行した事業費とかいろいろ載っておりました。この金額だけを市民の方が見られたら、例えば御津地域が予定では概算事業費が155億円だったのに65億円しか執行してない、それから建部地域が62億円で、32億円で半分ぐらいしか執行してないというように、その合併のときの約束がなかなかできてないんじゃないかなと思われると思うんですけど、そうじゃないと、私自身はいろんな事業が確実に進められていっていると思います。やっぱり公設公営、それから民設民営とかというふうにこの新市の計画の中でもやっている事業があると思います。例えば建部で言いますと、旧福渡高等学校の跡地の活用とかは民間でやっております。その民間でやっている事業が例えば20億円なら20億円ありますよというようなことも、当局としてはやっぱり丁寧に答えてあげたほうが市民の方にはわかりやすいのではないかと思います。

市民の方が合併してよくなかったとか言われる声をいまだによく聞くわけですが、やはりそれは、さっき支所とかの話をしましたけれど、行政拠点というか、行政をつかさどる拠点がなくなる、また小さくなる、そういうことでさみしさを感じられるほうが度合いとしては多いのではないかと思っております。ですから、しつこいようですけど、新市長にかわられて今回もそういう質問をしたわけですが、やっぱりそういう部分を踏まえて支所のあり方とかそういうことは検討していただきたいと思います。これは通告していませんので、もし御所見があれば教えていただければと思います。

以上で質問を終わります。

ありがとうございました。

◎高次秀明経済局長 薬用作物についての再質問をいただきました。

まず、国からのこういう情報をきちんと収集するところから始めまして、農業団体、それから農業委員会、また岡山市の保健所等とも連携しながら、まずは農業者の意向、それ

から需要ですね、マーケットの状況、そういったことを把握しつつ、どんな形で事業化できるのかどうか、これを検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。